

性同一性障害特例法

男性から女性、なお障壁 手術なしで認定、限定的か 性同一性障害特例法

朝刊社会面

毎日新聞 | 2024/7/11 東京朝刊 有料記事 837文字

願いがやっとかなった——。トランスジェンダーの申立人の性別変更を認めた10日の高裁決定は、手術なしで男性から女性となる道を開いた。ただ、身体の構造上、「女性から男性」に比べて「男性から女性」への性別変更は、なおハードルが高いとみられる。

「社会的に生きている性別と、戸籍の性別のギャップによる生きにくさから解放されることを大変うれしく思う」。申立人は、代理人の南和行弁護士を通じてコメントを出した。

2004年施行の性同一性障害特例法は性別変更のために五つの要件を設けた。このうち、生殖機能がない（生殖不能手術要件）▽変更する性別の性器に似た外観を備える（外観要件）を満たすには手術が必要とされ、二つは合わせて「手術要件」と呼ばれてきた。